

発達に課題のある幼児の 就学支援シート作りに関する実践的研究

— 地域の小学校との連携を通して —

久原 有貴 七木田 敦 小嶋 治鈴 松本 信吾
玉木 美和 金岡 美幸 関口 道彦 大野 歩
(研究協力者) 金子 嘉秀 河口 麻希

I. はじめに

2008年の幼稚園教育要領の改訂により、「幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のために、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。」と幼小接続に関する文言が入った。また、同年に改訂された保育所保育指針でも、「子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、保育の内容の工夫を図るとともに、就学に向けて保育所の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るように配慮すること」とされ、子どもの育ちを支えるための資料(指導要録等)が幼稚園保育所から小学校へ送付することが義務付けられ、積極的に連携をとることが必要となってきた。

保幼小接続を行う際に用いられている主な方法として、保育要録による引き継ぎがある。吾田(2011)や高辻(2008)は、小学校での保育要録の活用の実態調査を行った。その結果、小学校側としては、保育要録に記入されているすべての情報を求めているわけではなく、入学時に必要だと感じる、問題行動・親への対応・個別の配慮の必要な子どもについての情報等を求めている。しかし、保育要録は開示の問題も含め、本当に必要とされる情報がなく、形式的なものとなっている。そのため、要録への関心は高くなく、実際には保育要録の活用がされていないという現状がある。

文部科学省によると、幼小接続の課題として、ほとんどの地方公共団体で幼小接続の重要性を認識しているが、その一方で、幼小接続の取組は十分実施されているとはいえない状況があると報告している。その理由は、「接続関係を具体的にすることが難しい」、「幼

小の教育の違いについて十分理解・意識していない」、「接続した教育課程の編成に積極的ではない」等があげられる。幼小の教育の目標を「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして捉えると、幼児期の教育と小学校教育では、互いの教育を理解し、見通すことが必要であると言える。

秋田(2010)は、保幼小の円滑な接続の在り方のために諸外国における幼小移行の動向で、カリキュラムの接続という議論だけでなく、子どもと保護者が新たな環境移行をするために、どのようにサポートしうるかと言う論点から語られているのが、欧米の近年の保幼小接続動向であるとしている。つまり、カリキュラムの接続という点だけでなく、やはり子どもの実態をもとに、保護者や保育者が小学校への接続をどのようにサポートし、スムーズな移行を実現していくかという点を考慮していく必要がある。

また、一般的な保幼小連携だけではなく、特別な支援を要する子どもへの一貫した支援の重要性が繰り返し指摘されてきている。その中でも、小学校への就学に関しては教育委員会の指導の下、就学支援シートや連携支援シートなどを指導要録に加えて新たなツールを活用し、それぞれの子どもの必要な支援が継続して行えるよう工夫している市町村もありその実践例も報告されている。しかし、多くの場合、幼稚園保育所の保育の内容を伝えようとすると、小学校側との間に理解の齟齬を来し、また小学校のニーズを直接書き込むと、それは保育活動と相容れないものになるといった課題があった。

そこで本研究では、小学校側のニーズに配慮しつつ、幼稚園での保育の蓄積を伝えられるような意義のある幼小連携のための就学支援シートを、就学を控えた幼

Yuki Kuhara, Atsushi Nanakida, Chisuzu Ogamo, Shingo Matsumoto, Miwa Tamaki, Miyuki Kaneoka, Michihiko Sekiguchi, Ayumi Ohno, Yoshihide Kaneko, Maki Kawaguchi: A Practical Study on the Format of Useful Transition Support Sheets for Infants with Special Needs.

児Aの事例をもとに作成することを目的とした。

Ⅱ. 方法と概要

1. 方法

幼稚園側が伝えたい内容と、小学校側が知りたい情報を融合させた就学支援シートを作成するために、以下の方法で研究を進めることとした。

①幼稚園側が伝えたいことを整理する。そのために、前年度から継続して行っているカンファレンスを継続して行い、カンファレンスで話された内容から、幼稚園で大事にしてきた項目や視点、支援を明らかにした。そして、これまでに作成した就学支援シートの項目、内容を見直した。また、どのような方法で伝えていくのがよいのか検討した。

②小学校側のニーズを知るために、地域の小学校に向き、これまでに作成している就学支援シートを基にして内容等についてのインタビューを行った。

対象校は、特別支援学級を有する小学校にインタビューの打診を行い、受け入れてくれた東広島市立のX校、Y校、Z校の3校とした。

質問内容

- 1) 就学支援シートは役に立っているか？
- 2) どのような情報が有効か？
- 3) 不必要な情報はどのようなものか？
- 4) 掲載されていないが、知っておきたい項目や情報はありますか？
- 5) どのようにしたらより活用できるか？

以上の5つの質問においてインタビューを行うこととした。インタビューで回答を得た内容を就学支援シートに沿ってまとめ、小学校側が必要としている情報を明らかにした。

③幼稚園でのカンファレンスから見いだされた内容と、小学校のインタビューから見いだされたことを融合するために、就学支援シートに組み入れることができるか、それとも組み入れることは難しいのかについて検討を行った。そして、項目や内容を検討し、幼稚園にとっても小学校にとっても意義のある連携が可能な就学支援シートの作成を試みた。

2. 対象児

本研究の対象児は、広島県内のH幼稚園の年少児クラスから在籍し、20XX年度は年長児となっている男児A（以下A児）である。

A児の在籍するクラスの保育者は、担任のB教諭と副担任のC教諭で、基本的にはB教諭がクラス全体の保育を担当し、C教諭がA児への個別支援を含めクラスを補佐する役割を担っていた。クラス担当がないフ

リーのD教諭もA児への個別支援を適宜行っていた。なお、B教諭とC教諭はA児を初めて受けもつが、D教諭は年中時から引き続いての支援である。

A児は、入園以前より、認知・行動の発達面での遅れが見られ、E市内の医療・養育機関に通っていた。簡単な他者の指示による言語理解は可能であり、1・2語程度の発語はあるものの、全体としてみれば構音が未熟で他者が聞き取りづらい場面も見受けられた。また、運動に関して粗大運動などでごこちない部分があった。現在も幼稚園で集団生活を送りながら、いくつかの療養機関にも定期的に通う生活を送っている。

年少児クラスでは、入園当初は排泄の失敗が多く、生活や遊びの妨げとなっていたが、10月になると自分からトイレに行くことが増えた。園の生活にも一通り慣れると、他児とのかかわりが増えてきた。A児の良さである「人とかかわることが好き」という特性などを活かし、集団に溶け込めるよう働きかけが行われてきた。

年中児クラスでは、友だちとのかかわりが増え、トラブルになることも増えた。短い会話スキットを根気強く指導・強化するような支援を行い、友だちに向けても思いを言葉にできるようになっていった。他児がA児を仲間として受け入れようとする雰囲気が育まれてきたことにより、集団への参加や他児とのかかわりに対するA児の期待が少しずつ膨らんできた。

3. カンファレンスの概要

A児が年少クラスに在籍している時から大学との連携を行い、これまでA児に関しては継続してカンファレンスを行ってきた。A児が年少児の時には、身辺自立を中心にカンファレンスを行い、年中時期には集団への適応を意識してカンファレンスを行った。

今年度は小学校就学に向けて集団活動への参加に視点をあて、そのための支援のあり方を話し合ってきた。

カンファレンスは、幼稚園の保育者、大学教員・院生によって約1時間程度を目途に行われている。なお、カンファレンスには年長児クラスの担任・副担任のみならず、他のクラスの担任・副園長・養護教諭など可能な限り全教諭が参加し、多角的に検討が加えられるように所見の交換を行ってきた。カンファレンスに際して、幼稚園側は実践の中で得られたA児に関する保育記録を、大学側は事前観察による資料（映像を含む）を提示し、カンファレンスの資料とした。それらをもとに疑問や意見等を出し合い、支援の方向性を決め、実践を行うようにした。

本年度のカンファレンス開催日程は5月14日、6月

25日、7月17日、11月15日、12月13日の計5回であった。

4. 就学支援シートの概要

H幼稚園では、特別な配慮を要する幼児の就学に際して、就学支援シートを作成し、それを対象児が進学する小学校に渡してきた。

就学支援シートの内容や形態については議論を行い、以下の点を考慮した。

- ① 単純な「できる/できない」のチェック方式にはせず、より具体的な事例を通して作成する
- ② できないことだけでなく、本児の得意なこと・好きなことにも焦点を当てる
- ③ できるだけ伝えられる側の小学校が理解しやすい・読んでくれ易いものを作成する

作成に当たっては東京都あきる野市が作成している「就学支援シート『楽しい学校生活のために』」を参考に、以下の4つの内容を載せることとした。

- ① 対象児の簡単なプロフィール（基礎情報・検査結果・好きなことや得意なこと）
- ② 幼稚園での様子（項目として「健康や生活に関すること」「人とのかかわりに関すること」「学習に関すること」「興味や関心に関すること」）
- ③ ポイントの整理
- ④ 保護者の欄

その中で②「幼稚園での様子」の項には、対象児についての具体的な情報が多く含まれる部分である。つまり小学校側に、就学支援シートをもとに対象児への理解を深めてもらうためにも、この部分をいかに工夫するかが鍵となると考えられた。そこでそれぞれの項目ごとに支援のキーとなるポイントを簡潔にまとめ、それを代表するようなエピソードや写真を保育者の記録の中から抜き出し作成した。

Ⅲ. 新しい就学支援シートの作成にあたっての手続き

1. 幼稚園でのカンファレンス

1) 幼稚園でのカンファレンスの実際

今年度もA児に関するカンファレンスを定期的に行ってきた。今年度開催された計5回のカンファレンスの内容から、A児が幼稚園生活を送る上で大切にしていることや、丁寧に行ってきた支援など、A児に関する支援のポイントを抽出した。すると（1）身辺自立に関すること、（2）対人関係に関すること、（3）集団参加に関することの3点があがった。

（1）身辺自立に関すること

目に入った物に興味に移り身辺整理に集中できなかったり、遊びに夢中になって排泄を失敗したり、食べることに興味はあるものの、自分のお弁当は食べなかったりなど、日常生活を送る上での支援が必要な場面があった。そこで、身辺自立ができるようになる支援はA児にとっては大切なことだろうと考え、基本的な身辺自立について、A児の状態を把握し、A児に応じた支援を現在も継続して行っている。

①排泄

排泄に関しては概ね自立しており、尿意・便意を感じると自らトイレに行けるが、遊びに夢中になると失敗することがある。そこで、定期的に声かけをし「次は〇〇があるから、始まる前にトイレに行っておこうね」と次の活動への期待と見通しがもてるようにすることを大事にしてきた。この支援が、遊びや活動へのスムーズな移行につながっていると考えている。

②食事

多少偏食がある。食べることに興味はあるものの、食べたくない気持ちになると、いつまでも完食できない状況になる。そこで、保護者と連携をとりながら、量の調節をしたり、苦手なものは食べやすくしてもらったりしている。また、意欲とつながっているところもあり、気持ちを高めるような働きかけ（周りの子どもたちからの応援や食後の活動への期待）をすると食が進むこともある。

③着脱衣

概ね自立しており、服が裏返しになると元に戻すこ

人とのかかわりに関すること—人とのかかわり	
<p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達への関心や関わりたいという気持ちは人とても強い。あこがれる子や声をかけてくれる子がいると張り切る。しかし、相手に拒否されてしまうことが怖いようで、躊躇してしまうこともある。 ・先生や大人との関わりは、信頼関係が築ければ、スムーズに行うことができる。ただし、自分に非がある場合や要求を伝えようとするときには、先生に対してもかかわりを躊躇する時がある。 ・要求をストレートに伝えられず、自分の気持ちを抑えたまま友達と関わってしまうことがある。友達との関係が安定してきた後にも、配慮が必要である。 ・基本的に、宗教上のことで、友だちと争いごとをしないように、育ててきている。 	
<p><幼稚園でのエピソード></p> <p>【よく一緒に遊びたい・・・】</p> <p>登園後、遊戯室に行く友達に「おうちごっこ」をしていました。このころは（年中の3月）まだ先生を頼っていた部分も多く、友達に気軽に「よして」と言うことはできませんでした。友達から拒否されてしまうのでは・・・と、とても不安だったようです。</p> <p>またこのときは、日頃全く付き合っていない友達だったため、かなり躊躇していました。ビーと友達の様子を見たり、考えながらうろうろしていると（上の写真）、先生が気づきました。「よしてって言うの？」と先生が聞くと、大きな声で「よして」と言うことができました（中の写真）。これが彼にとって初めて友達と一緒にごっこ遊びができた日でした。</p> <p>生活や遊びの中で、まだ時々自分の気持ちを抑える場面もあります。お互いの気持ちが通じ合えるよう、様子を見ながら保育者は橋渡しを行うことなども適宜行ってきました。</p>	 <p>「一緒に遊びたい・・・でも...断られたらどうしよう...やっほり言えないよ」</p> <p>「よして」って言ってみよう！</p> <p>先生も一緒に遊べたらいいな...よして...「よして！」</p> <p>「まだ、ちょっとドキドキだけど...でも、はじめて一緒に遊べた！」</p>
<p><まとめ></p> <p>以前に比べるとずいぶん成長してきましたが、ただやはり大人や友達に要求したり気持ちを伝えるのがうまくできないことも多くあります。宗教上の要因（自分が悪い人になってしまうことへの恐れ）も大きいかもしれませんが、Aくんの葛藤や気持ちにつき合いながら、丁寧に時間をかけて発言を促していただけたらと思います。</p>	

【就学支援シートの例：幼稚園での様子】

ともでき、丁寧にたたむことができる。時に「やって」と甘えてくることがあるが「Aくんが上手にできているところを見せて」などやる気ができるような言葉かけをすると、自分でやり遂げることができる。自分でできることはできるだけ頑張れるような支援を行い、できたときにしっかり認めることで自信がもてるようにしている。

(2) 対人関係

A児は人とかかわることが好きである。だからこそ、友だちとのいざこざが多く生まれているようだった。いざこざを何度経験しても、A児は人とのかかわりを求めていた。そこで、良好なかかわりができるように、保育者は言語表現において援助してきた。また友だちの思いを感じとることが苦手であったため、相手の思いに気づけるようにするための支援について話し合われた。

①言語表現

他児とのかかわりの中で、自己中心的な行動が先行し、トラブルになることが多い。「自分はどうしたかったのか」を丁寧に聞き取り「それなら、〇〇くんは「貸して」って言ってみようか」と自分の思いを言葉にして伝えることを支えてきた。言葉にすることで相手にも理解され、心地よい関係が築けることを経験できた。その経験の積み重ねにより、行動するよりもまず言葉で相手に伝えようとする場面が少しずつ増えてきた。言葉で伝える場면을丁寧に支えることで、良好な対人関係を築いていく方法を習得してきている。

②相手の気持ちを感じとる

自分の思いが優先され、一方的な関係になりやすいため、コミュニケーションをとることが難しい。「〇〇ちゃん、痛いんだって」「〇〇くん、こうしてほしいんだって」と相手の気持ちを分かりやすく伝えることで相手の気持ちに気づき、どうすれば認められる行動なのかを具体的に提示することで他児とのトラブルも少しずつ減ってきている。相手の気持ちを感じ取れにくいA児にとっては、保育者が間に入り、相手の気持ちに少しでも気づけるような支援が必要である。

(3) 集団参加について

年中時期、A児は集団の中に入るよりも自分のやりたい遊びを続けていたいという気持ちが強く、集いの時間に間に合わないことも多かった。カンファレンスを重ね、支援を行ってきたところ、集団での活動も少しずつ楽しむようになっていった。年長児になり、集団の中で楽しむ姿が見られることが増えている。小学校生活においては、幼稚園生活よりもさらに集団での

活動が増えてくるだろう。そこで、集団での活動を楽しむための支援を考えてきた。

①意欲の継続

活動の内容が理解でき、意欲がもてる内容であれば、積極的に参加できる。しかし、興味もてない場面であれば集中が持続せず、参加意欲は低い。活動の見通しがつけば活動に参加することができるので、活動の流れを分かりやすく伝え、終わりがいつなのかなど、行動の見通しをもたせることが大事である。

②ルールの理解

リレーのように、自分がゴールした後次の人へバトンを渡すというような単純なルールであれば何度も繰り返し経験することで理解することができる。ルールが複雑になると理解が難しく意欲も低下するため、保育者がそばで一緒に参加し分かりやすい言葉でその場面の状況を説明しながら、A児が理解できるように働きかけてきた。しかし「順番」という単純なルールであっても、自分の欲求がコントロールできず、守れない場面もある。本児が理解できるような伝え方を工夫することで、ルールを守って他児と協同して活動できる場面が増えてきた。

【エピソード「ブランコ、30で交替」】

ブランコにすぐに乗りたいというA児と、すでに乗って遊んでいるF児の間でいざこざが起こった。保育者が仲介に入り、「数を30数えたら交代」という決まりをきめた。しかし、順番を待つためにただ数を数えるだけでは、「いつまで数えれば終わりがくるのか」がA児にわかりにくく、交替できない。待っている人が手拍子をしながら数を数え、30まで数えた後「おまけのおまけの汽車ポッポーとなったら代わりましょ♪」というフレーズを言うことで、手拍子によるテンポやリズムで楽しく待つことができ、さらに代わるタイミングが計りやすく、A児にも終わりが分かりやすかった。

このように、単に「順番だよ」と伝えるだけでなく、順番を待つことによって楽しい時間を過ごしたり、遊びへの期待を高めたりできるようなかかわりが、A児にとって必要であろう。

2) 幼稚園のカンファレンスを受けての見直しの視点

これまでのカンファレンスを通して、幼稚園で大事にしてきた項目や視点、支援が明らかになった。これらは、小学校に伝えていきたい内容であり、大切にしたいことである。これらの内容が小学校で生かされて

いけるよう、幼稚園で大事にしてきた項目や視点を意識しながら、これまで作成してきた就学支援シートを項目ごとに整理、検討していった。

対象児の簡単なプロフィール（基礎情報・検査結果・好きなことや得意なこと）は、対象児の特徴を掴むためには必要だろう。幼稚園がもっている限りの情報を載せて、小学校へ接続することが大事だろうと考え、これまで通り掲載したいと考えた。

幼稚園での様子は、対象児の様子を小学校に詳しく伝えるためには必要だろう。項目に関しては、これまでに作成している内容を見返すと、同じような内容が重複して書いてある項目があったため、項目の整理を行った。具体的には以下に記す。

生活面・健康面に関することを「身辺自立に関すること」として、生活習慣に関することやA児が生活する上で不器用なことや得意なこと、支援の方法を描いていこうと考えている。生活に関して、自分のことを自分ですることは、自己肯定につながることであり、その部分を支えることで、対象児は育つと考える。だからこそ、この項目で「対象児が自分で出来ること」や「支援の必要な内容」を伝えていくことは、対象児の育ちを連携したり保障したりすることにつながるのではないかと考えている。この情報をもとに、小学校への進学後にも自分のことを自分でする力を継続したり、出来なかったことができるようになる喜びを感じたりできるような支援をするきっかけにして欲しいという思いから、この項目を記載したいと考えた。

人とのかかわりに関することは「対人関係」と「集団参加」に分けて書くことで、描くポイントをわかりやすくする。「対人関係」では主にコミュニケーションをとることについて、「集団参加」では、集団活動に参加することについてのA児の姿や必要な支援を描く。人とのかかわりは、社会を生きていく上で必ずといっていいほど必要である。人と適切にかかわることで、その楽しさを感じたり、お互いのよさを認め合ったりできる。しかし、適切なかかわりができなければ、人と共に生活することは難しくなってしまう。そこで、対象児が「人とかかわる上で得意なことや苦手なこと」、「支援の必要な内容」を記載することで、小学校でも人との適切なかかわり方が身についたり、集団活動への参加が可能になったりするような支援ができるだろうと考え、この項目を記載したいと考えた。

学習に関しては、対象児の学習に関する特性を描いていくことが大事だろうと考え、A児に関しては「認知・理解」という項目にしようと考えている。興味・関心に関しては、プロフィールの「興味のあること」の中に組み入れようと考えている。

A児が生活する中で、どんな状況の時には意欲をもって活動できるのか、友だちとどのようにかかわってきたのかなど、小学校側に対象児の実態を読み取って欲しいと思うからこそ、エピソードを用いてA児のありのままの姿や支援のタイミングなどを伝えていきたいと考えた。また、その情景が思い浮かびやすいように、これまで通り写真を入れたものにしたと考えている。

ポイントの整理は、対象児にとって大切な情報を簡潔明瞭に示すものになっているので、引き続き記載していきたいと考えた。

保護者の欄も、引き続き保護者の思いを記載しようと考えた。保護者との連携は幼稚園でも大事にしており、小学校にも保護者の思いを伝えることで、小学校と保護者とのスムーズな連携が可能となるだろうと考えている。

幼稚園のカンファレンスを通して、就学支援シートを大幅に変えることはないが、項目については内容を検討し、幼稚園で大事にしてきた対象児の育ちや支援の方法が整理されているシートを作成したいと考えた。また、小学校側に対象児についての理解を深めてもらいたいという思いは継続してもっている。そこで、対象児の特性や特徴が分かりやすく詳しく伝えられるように、対象児の育ちの部分をエピソード形式で記載し、対象児の姿を思い描きやすいものにしたと考えている。合わせて、対象児の支援のポイントを簡潔明瞭に示したシートを作成していきたいと考えた。

2. 小学校へのインタビュー

1) インタビューの実際

地域の小学校の特別支援に携わっている小学校教諭に、これまでに幼稚園が作成した就学支援シートを読んでもらい、「就学支援シートが有効に活用できるかどうか」等について、率直な意見をインタビューによって引き出すことにした。以下、インタビューの結果を記す。

①東広島市立X小学校

児童数：840人（20XX年4月現在）

特別支援学級：3学級12人

インタビュー日時：20XX. 8. 3（金）10:00～11:00

出席者：G教諭（特別支援コーディネーター）

1学年教諭2名

インタビュー内容

1. 一読はしている。情報としては、その子のことが分かるので、役に立っている。また、形態が違うため幼稚園の情報が有効に使えていない。

2. ポイントを整理したマニュアル的な内容がよい。(例えばプロフィール、保護者の思いや願い、WISK検査結果、医療的な情報内容、得意なこと)
3. エピソードの部分は、よく分かるが細かすぎて、困ったときにすぐに使えない。
4. 効果的な支援の仕方について、具体例をあげてしてほしい。また、現在の医療機関での結果経過や療育の経過についての情報がほしい。
5. ポイントだけをまとめて、1枚ものにしてほしい。すると、すぐに見ることができて、使い勝手がよい。

②東広島市立Y小学校

児童数：459人（20XX年4月現在）

特別支援学級：2学級5人

インタビュー日時：20XX.12.27（木）10:00～11:00

出席者：学校長

H教諭（特別支援コーディネーター）

インタビュー内容

1. 情報が多すぎて読めていない。しかし、これからの新しい生活のためには、支援シートで配慮や支援が伝えられていれば、事前の対策が変わってくるために役立つと思う。また、シートをきっかけとして、その後の話し合いが効果的に行われるので就学支援シートは役立つと思う。
2. 情報としては、友達関係・集団での行動については欲しい。具体的には、全体の指示で行動できるのか。また、どの程度理解をしているのか。あるいは、理解できないのか等。身体症状（パニック等）があるか。これらの様子がわかれば支援の仕方がわかってくるのではないか。
3. エピソードの部分は、概要とまとめ箇所を読めばほぼ理解できるので、特に必要としない。また、写真も必要としない。
4. これからの学校生活を考えたとき、全体の中での指導が聞けるか。着替えはどうなのか。食事面や友達関係についてはどうかなど、困る状況での対処について、詳しい記述がされているといいのではないか。
5. エピソード記述については、友達とのトラブルがあったときの様子や対処などが、明確な因果関係があって書かれていればよいのではないか。

③東広島市立Z小学校

児童数：288人（20XX年4月現在）

特別支援学級：4学級6人

インタビュー日時：20XX.12.12（水）16:00～17:00

出席者：学校長

I教諭（特別支援コーディネーター）

インタビュー内容

1. 小学校受け入れまでの段階で、事前に情報を把握できて、準備のための必要な物品購入をしやすい。(例えば好きな物、環境整備、幼稚園で支援のために使用していた教材教具など) また、小学校での支援計画作成の際に、このシートがあれば反映できる。
2. 情報は多いほどよい。その中でも、小学校側は①身辺自立：どこまで自分の身の周りの事ができるか。②友達の関係・コミュニケーション能力：他児とのかかわりはどうか。同じ幼稚園から入学する児童がいる場合、具体的な名前を載せることが可能であれば、クラス編成や学級作りにも参考になる。また、エピソード記述は、本人の姿を思い浮かべられるためわかりやすい。ポイント整理については、本人の情報が集約されていてよい。保護者についての情報も、保護者の思いや願いを事前に知ることができるのでよい。具体的な教材教具の使用していた状況や写真など一覽で示してあればよい。
3. 学習に関することは、入学後にある程度掴むことができる。
4. 保護者の情報と幼稚園からの情報が異なることが多いので、幼稚園での取り組みやアプローチの仕方などをエピソードの記述の中に入れてほしい。そこには、本人の発達の変容があればよい。(情緒の不安定の有無について) また、どこの療育機関の誰の担当なのかもわかればよい。
5. 「ポイント整理」の箇所は、エピソードの前にもってくれば、対象児の様子を全体的に把握した上でエピソードを読んでいけるので、構成の順番を変えたらよいのではないか。また、写真も入れていくと状況が伝わりやすい。プロフィールには、幼稚園の担任名や担当者の名前が加わるとよい。

2) 小学校のインタビューを受けての見直しの観点

インタビューを行った3校の意見をまとめ、これまでの就学支援シートの項目と照らし合わせた。

対象児の簡単なプロフィール（基礎情報・検査結果・好きなことや得意なこと）については、必要である。そこに加えて、いざというときにすぐに連絡がとれるように、出身の幼稚園の連絡先や年長児の時の担任名を載せるとよい。

幼稚園での様子については、必要という学校とそうでない学校があった。知りたい情報としては、特に「身辺自立」「人間関係」という項目で、項目ごとに分けて記載されているのは分かりやすくよい。しかしながら、その中に描かれている内容については、検討してほしい。特にエピソード部分については対象児に関

して何が言いたいのかポイントが掴めない。合わせて、対象児がどのような状況でどのような姿を見せるのかといった対象児の雰囲気や、対象児に保育者がどのようなタイミングでどんな声をかけてきているのかといったことについては、対象児が小学校に入学してから実際にかかわることで感じていけるものなので、必要ない。ただし、各項目に対して簡潔に書いてある「概要」と「まとめ」に関しては分かりやすく、ポイントが掴めるので、この部分は欲しい。「何がどこまでできるのか」についても意識して記載して欲しい。写真は、あれば状況が分かりやすいが、なくてもよい。

新たに加えてほしい内容としては、幼稚園で使っていた対象児にとって有効な教材や教具についての内容や写真であった。

ポイントの整理については、活用するに当たって有効であり必要である。支援のポイントが簡潔明確に示されていることで、対象児の特徴が理解しやすい。

保護者の欄についても、保護者と話す際に、保護者の考えていることや思っていることが事前に分かり、保護者とのコミュニケーションがとりやすいため、必要である。

小学校へのインタビューを通して、就学支援シートは対象児の特徴や支援のポイントが伝わるのが大切であることが明らかにされた。ポイントが簡潔的確に記載されているものの方が使いやすく、実際に支援に困った際に参考になるようだった。エピソード部分は、対象児の姿を思い浮かべるためにはいいかもしれないが、実際に困った状況で支援を行う際には有効でないようであった。「まだかかわったことのない対象児だからこそ、たくさん情報を与えられても頭に入らない」「入学してかかわって初めて対象児のことを知る。小学校でも生活が始まってから、教師と対象児の間で信頼関係を築いていく。だからこそ、支援シートでは入学後1～2週間の間に、対象児が混乱して戸惑うことがないように、かかわるポイントを簡潔明瞭に知りたい」という意見が多く、ポイントを絞った就学支援シートを作成して欲しいという思いだった。

IV. 新就学支援シートの概要

これまでの経緯より、就学支援シートの作成は就学に際して有効であり、意義のあるものと捉えられた。そこで、幼稚園で大事にしてきた内容と、小学校のインタビューから得られた情報を融合させて、どのような就学支援シートを作成するとよいのかを考えていく。

就学支援シートの形式に関しては「一覧にしてほし

い」という意見があったが、それでは幼稚園の伝えたいことが十分伝えられないものとなることが懸念されるので、基本は、これまでの支援シートと大きく変えず、項目ごとに記していくことにした。

①対象児の簡単なプロフィール（基礎情報・検査結果・好きなことや得意なこと）に関しては、従来通り、掲載できる情報はできる限り掲載することとした。それに加えて、小学校側が入学後に連携しやすいように、幼稚園名と連絡先、年長組に担任だった保育者の名前を記載するとよいと考えた。

②ポイントの整理に関しては、従来は『幼稚園での様子』のあとに記載していたが、小学校のインタビューで「一目でどんな子どもかが分かりやすい」という意見が聞かれたので、この位置にもってくることにした。内容に関しては、支援のポイントや今後必要な支援について、簡潔明瞭に記載する。

③幼稚園での様子に関しては、大きく形式を変えることにした。これまでの就学支援シートでは、エピソードを用いて、活動に対する対象児の意欲や、保育者がどのようなタイミングでどのような声をかけてきているのかなど、対象児の姿が分かるような描き方をしていた。これは、対象児に関して一概に「このかかわりが成功する」など言い切れない部分があるとともに、保育者が、支援の方策だけでなく対象児が気持ちを切り替えるタイミングを大事にしたり、考える時間を保障したりしながらかかわっていること、またそのことを大事にしてきたことなどを含めた、対象児のありのままの実態を小学校の教諭にも知って欲しいという思いからだった。しかしながら、インタビューにおいて雰囲気的なものはそれほど必要でなく、それよりは、対象児の課題となる部分に対して因果関係がはっきりするような内容がほしいという意見が多かった。

そこで、エピソードの部分削除し、小学校側が必要としている対象児の特徴や課題が端的に書いてあるものに変更してみることにした。ただし幼稚園側としては「これはできる、これはできない」「こうなった時にはこう支援する」などのマニュアル的なものばかりは書きたくない。対象児が困った状況になったときにすぐに対処できる支援をするだけでなく、対象児の心を大事にかかわってほしいと考えているので、これまでエピソードで伝えていた部分を“項目の概要”の欄や“まとめ”の欄に簡単にでも描いていくことで、少しでも幼稚園側の伝えたい対象児の姿や意欲、心が表れるようにしたいと考えた。

記載する項目については、幼稚園で大切にしてきた内容や支援策を中心に記載することにした。A児に関しては、「身辺自立に関して：排泄、食事、着脱衣」「対

人関係に関して：言語表現,相手の気持ちを感じとる」
「集団への参加：意欲の継続, ルールの理解」「学習に
関すること：認知・理解」である。

小学校のインタビューにおいて「身辺自立」と「友
だちの関係・コミュニケーション能力」については必
ず知りたいという意見があったので、幼稚園側と小学
校側の要望が一致した形となった。また、「学習に関す
ること」は、対象児の学習に関する特性や対象児が学
習に当たる際に支援が必要な事項を書くことにした。
「どこまでの理解は可能なのか」、「どこを支援すれば参
加できるか」、逆に「現段階では難しいこと」などを載
せておくことによって、小学校に対象児の特徴が伝わ
るであろうと考えている。「興味や関心に関すること」
については、①対象児の簡単なプロフィール紹介の中
に組み入れることで、簡潔に、かつ必要な情報が入
った就学支援シートになるのではないかと考えた。

また、小学校のインタビューを通して、「教材・教具」
について新たに書き加えようと検討を行った。幼稚園で
対象児に対して使用していた特別な教材や教具があれば、
その写真やそれらを効率よく使う方法を当てはまる
項目の中に組み入れようと考えている。その情報をもと
に、小学校でも同じ物を用意したり、それらを使用して
A児が不必要な戸惑いを感じることなく小学校生活を
送り始めたりすることができるだろうと考えている。

④保護者の欄に関しては、小学校側も保護者の意向を
知っておきたいという思いをもっているため、継続し

て記載しようと考えている。

V. 総合考察と今後の展望

本研究では、就学を控えた幼児Aの事例をもとに、
小学校側のニーズに配慮しつつ、幼稚園での保育の蓄
積を伝えられる幼小連携のための就学支援シートを作
成することを目的とした。

小学校に対して就学支援シートについてのインタ
ビューを行った結果、特別な配慮を要する幼児が就学
する際に、就学支援シートの役割は大きいことが明ら
かになった。しかしながら、送る側としての幼稚園と
受ける側としての小学校では、伝えたい情報と知りた
い情報に差異が見られた。特に顕著であったのが、概
要③にあたる幼稚園のエピソードの部分であった。

小学校側としては、入学後の対象児とかかわりの中
で信頼関係を築いていくものであるため、幼稚園での
エピソードはそれほど必要でないことが分かった。一
方、幼稚園としては「できる、できない」「こうなっ
たらこうする」などのマニュアルで対象児にかかわっ
て欲しくないという思いがある。そのため、エピソード
形式を用いて、「どんな状況の時には意欲をもって
活動できるのか」「こんな状況の時にこうかかわった
ら、こんな成長が見られた」など、対象児の姿や雰
囲気、生活全部が繋がっていることを伝えていきたい
という思いをもっている。しかし、小学校側が使えな
ければ意味がないものになることも考えられたので、
今回作成した就学支援シートでは、小学校の意向を大
きく組み入れた形にした。しかしながら、対象児の姿
を端的に伝えようとすると、一部の姿しか伝わらない
恐れもあり、幼稚園で伝えたいことが十分伝えられ
ない部分がでてくるのが危惧される。保育の中で対象
児の心を大切にしながら試行錯誤を繰り返す過程や、
その中で育っていく子どもの様子等の保育の蓄積を就
学支援シートというツールだけを通して小学校に伝え
ていくのは難しいようである。

また幼稚園では一人一人の個を大事に支援してお
り、小学校は全体の中での個の支援となっている。そ
の違いが、エピソードよりも、入学後すぐに必要な声
かけの仕方や支援の方法等の具体的な情報、「こうし
たら成功する」といった整理されたポイントが知りた
いということにつながっているのかもしれない。

幼稚園と小学校の子どもを見ていく視点が異なるた
め、この2つの両極端な思いを一つにするのは難しい
ことが改めて分かった。連携の基本は、個人の特徴を
知った上でかかわることによって、対象児が無理なく
生活し始めることができるようにすることであろう。
だからこそ、お互いの教育を理解した上で、作成した

身辺自立に関すること	
<p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的なこと（身支度、排せ、手洗いなど）は、自分のことは自分でできる。 意欲がないとぼーっとしたり寝転がったりすることがある。このような時には、どんな声をかけても起き上がってこないことが多い。少しそっとしつつ、遊びへの期待がもてるような声をかけたり、手伝って物事をさっさと済ますことで気分を切り替えたりできるようにしている。 違うものに興味に向くと、やらなければならぬことからは気が逸れやすいが、次の活動への意欲をもっている場合は、素早く物事をやりこなす。 手先は不器用。体の使い方もぎこちなく、身体能力は高くない。しかし運動遊びには積極的。 	
<p>○排泄</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね自立している。洋式でも和式でも可能。 尿意・便意を感じると自らトイレに行ける。 遊びに夢中になると失敗することがある。 一定期的な声かけが必要。 「次は〇〇があるから、始まる前にトイレに行こう」などの次の活動への期待と見通しがあると効果的。 	写真
<p>○食事</p> <ul style="list-style-type: none"> 多少偏食あり。（〇〇や〇〇が好き、〇〇や〇〇は苦手） 箸を使って食べるができる。 冷たいご飯が苦手 一保護者と連携をとり、量を少なくしてもらったり小さいおにぎりに変えてもらったこともある。すると食べた例もあるが、それが継続するわけではない。 	写真
<p>○着脱衣</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね自立している。きつい服でなければ自分で脱げる。 丁寧のため。 甘えてやろうとしないこともある。 「A君ができるころを見せて」など、A児への期待をもっていることを伝えると、やる気を出すこともある。 	写真
<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> A児の意欲を大切に声かけや支援が必要。 やる事が理解できれば自分でできることができるので、自分でやる心地よさを感じられるように伝えていくことが大切である。 手先が不器用なので、物事に時間がかかるが、ゆとり待つことが大事。 認められると喜ぶので、ひとつひとつをしっかりと認めていく。 偏食があるので、給食になれるまでに時間がかかるだろう。粘り強い支援と見守りが必要だろう。 体の使い方は不器用だが、体を動かすことは好きなので、体を動かす経験の積み重ねが大事。 	

【新就学支援シートの例：幼稚園での様子】

就学支援シートを参照できるようになれば理想的だと考える。

しかしながら、就学支援シートが小学校就学に際して役立っているということが明らかになったことは、作成する幼稚園にとって嬉しいことであった。また、項目についても「身辺自立に関すること」、「人とのかわりに関すること」は、前回作成した支援シートにも掲載されており、今年度のカンファレンスでも大事にされてきた。また小学校側も知りたい情報であったということから、これらの項目に関しては、不動・普遍であるということが伺えた。ただし、その中の視点に関しては、対象児によって様々であるため、その都度何を記載する必要があるのかを検討することが求められるだろう。また、対象児のもつ特徴によっても、項目や内容を増減していくことが大切である。

本研究で、これまで作成してきた就学支援シートを見直し、項目や内容についての重複をなくすことで、対象児の様子を伝えやすくしようと試みた。その結果、就学支援シートを作成する際には、対象児に応じて内容を検討しながら作成していくことの大切さを感じた。また、幼稚園と小学校双方にとって意義のある就学支援シートを作成しようと試みたが、やはり、幼稚園が伝えたいことは小学校では必要ない情報もあり、小学校に合わせようとするとう幼稚園で伝えたいことはなかなか伝わりにくく、この状況を打破することは困難であった。このことについては、就学支援シートの内容ではなく、幼小連携における今後の課題と言えよう。また、就学支援シートというツールだけの連携では、対象児のことを伝えるには限界があるのではないかと考えられる。就学支援シートを作成しつつ、実際に小学校教諭と幼稚園教諭が顔を合わせて、作成した就学支援シートをもとに対象児についての話をする機会をもつことが大事になってくるのだろう。今後は、本研究で作成した新就学支援シートの有効性を明らか

にしていくと共に、さらなる滑らかな接続をするための方法を模索していきたい。

引用・参考文献

- 1) 秋田喜代美 (2010) 保幼小の円滑な接続のあり方のために諸外国における幼小移行の動向. 発表資料. 文部科学省
- 2) 秋田喜代美・有馬幼稚園・小学校 (2002) 「幼小連携のカリキュラムづくりと実践事例」 小学館.
- 3) 久原有貴・七木田敦他 (2012) 広島大学学部・附属学校共同研究紀要 第40号「発達に課題のある幼児の集団への適応に関する実践的研究」
- 4) 厚生労働省 (2008) 保育所保育指針. 厚生労働省.
- 5) 吾田富士子 (2011) 初年度の保育要録活用の現状と保幼小連携—札幌市内全小学校への調査から—. 藤女子大学紀要. 第48号. 第Ⅱ部. 113-124.
- 6) 酒井朗 (2009) 高まる幼・保・小連携への期待と課題. 季刊保育問題. 235. 47-57. 2009-02.
- 7) 佐藤暁・堀口貞子・二宮信一 (2008) 『保幼—小が連携する特別支援教育—就学準備→通学のサポート実務百科』. 明治図書.
- 8) 高辻千恵 (2008) 保育所と小学校の連携に関する今後も課題—保育所保育児童要録を中心に—. 埼玉県大紀. 10. 15-23.
- 9) 七木田敦他 (2010) 広島大学学部・附属学校共同研究紀要 第38号「特別な配慮を要する幼児の「就学」のための体制作り」
- 10) 七木田敦他 (2011) 広島大学学部・附属学校共同研究紀要 第39号「発達に課題のある幼児の幼稚園適応に関する実践的研究」
- 11) 師岡章 (2009) 「小学校との連携」の捉え方・進め方. 季刊保育問題. 235. 58-67. 2009-02.
- 12) 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領. 文部科学省.